品種解説：「アネコモチ」

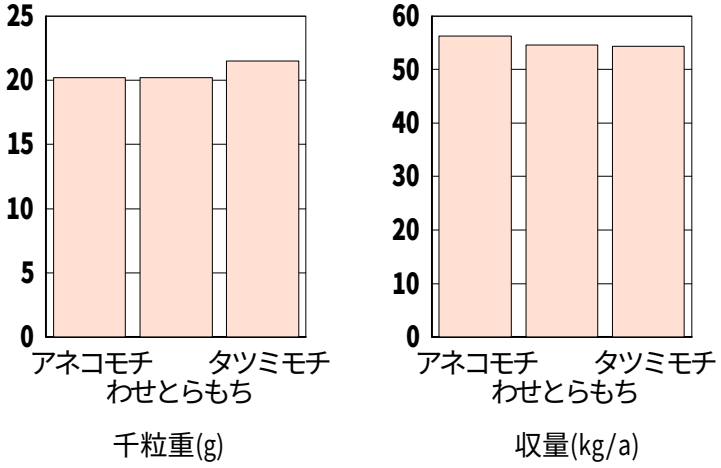
概　要：本品種の障害型耐冷性は「わせとらもち」より強く、「タツミモチ」並みの“強”である。名前の意味は、“美しく、美味しい餅ができる品種であることを、東北地方の方言「あねこ」で”表現する。

１．来歴の概要

「ふ系糯 133 号」を母とし、「ふ系糯 119 号」を父として、1981 年に青森県農業試験場藤坂支場で交配された。1989 年に「ふ系糯 155 号」の系統名が付けられ、1991 年に水稲農林糯 312 号として登録された。

２．形態的特性

・稈　長：「わせとらもち」より短い。
・穂　長：「わせとらもち」並みかやや長い。
・穂　数：「わせとらもち」より少ない、短稈穂重型のもち種である。
・粒　大：「わせとらもち」よりやや大きい。
・千粒重：「わせとらもち」よりやや重い（下図参照）。



３．生態的特性

・出穂期：「わせとらもち」より２～３日早い。
・成熟期：「わせとらもち」より４日程度早く、育成地では「タツミモチ」並みの“早生の早”である。
・収量性：「わせとらもち」「タツミモチ」より高い（上図参照）。
・耐倒伏性：「タツミモチ」より強く、「わせとらもち」よりやや強い。
・葉いもち抵抗性：「わせとらもち」より強い。
・穂いもち抵抗性：「わせとらもち」並みである。
・耐冷性：「わせとらもち」より強く、「タツミモチ」並みの“強”である。
・穂発芽性：「わせとらもち」より発芽しにくい。

特　性	アネコモチ	わせとらもち	タツミモチ
耐冷性	強	やや弱	強
耐倒伏性	やや強	やや強	弱
葉いもち抵抗性	やや強	やや弱	中
穂いもち抵抗性	中	中	中
穂発芽性	中	易	やや難

４．品質・食味特性

・玄米の外観品質は「わせとらもち」「タツミモチ」より良質である。
・餅の食味は「わせとらもち」よりやや良く、「サカキモチ」並みである。
・餅質は、一般的にお供え餅、かきもち、あられなどの米菓加工用に適する。
・タンパク質含量は「わせとらもち」より低く、「タツミモチ」並みである。

５．適地等

・寒冷地北部平坦地、その他寒冷地の平坦地から山間地、および関東以西の山間冷涼地帯に適する。

６．栽培上の注意

・強稈であるが、品質、食味を低下させないため多肥栽培は避ける。
・穂いもち抵抗性が“中”なので、基準防除を徹底する。
・登熟が早いので、遅刈りによる品質低下に注意する。
・白葉枯病には弱いので、常発地では栽培を避ける。

＜参考資料＞

農林水産省農林水産技術会議事務局（平成３年６月）：平成３年農林水産省育成農作物新品種（夏作物・園芸作物）。